



< 移植外科 >

概要

当科は平成23年4月に「移植外科」と標榜され、外来診療室も新設されました。平成22年12月には、脳死下提供された腎臓による献腎移植手術(法改正後、東三河初)を施行し、平成23年3月には ABO 血液型不適合の生体腎移植手術(当院初)を施行しました。また平成22年1月より鏡視下手術によるドナー腎採取術を行っています。これにより、ABO 血液型不適合の壁を越えての生体腎移植が可能となり、血縁親族だけでなく、配偶者間の生体腎移植の道が大きく広がりました。

当院の腎移植医は2名で、臓器移植専門の外科医師であり、腎移植手術と術後管理、退院後の生涯にわたる免疫抑制維持療法の継続および全身管理を行っています。日本でもトップクラスの実績を誇る名古屋第二赤十字病院と連携しつつ、他地域で移植された三河地域の患者さんに対するフォローアップの受け入れ体制も整えております。現在では、腎移植に限らず、肝移植後、膵移植後の患者さんのフォローアップを行っています。

豊橋市民病院の臓器移植医療は、臓器・組織提供施設として岡村和彦元院長・脳外科部長による昭和58年の第一例目の移植腎と角膜の提供にはじまり、現在までに日本で二番目の献腎提供(45例89腎)を行っております。

名古屋大学第二外科および名古屋第二赤十字病院移植外科は昭和47年の第一例目の腎移植に始まり腎臓移植および肝臓移植、膵臓移植の臨床・研究の研鑽を積んできました。平成9年、岡村和彦元院長の招聘により大塚聡樹医師(名古屋大学医学部第二外科:名古屋第二赤十字病院・移植内分泌外科)が赴任し、血液浄化センターでの透析医療を維持し、腎移植医療の院内体制を整え、平成10年1月に成人の生体腎移植を豊橋市民病院で初めて実施しました。また、同年2月に(社)日本臓器移植ネットワークより死体腎移植施設として承認され同年12月に成人の屍体腎移植を初めて実施し、平成11年8月には東三河地方初の小児の生体腎移植を行い、成人および小児の腎移植医療を導入しました。

平成11年3月に当院より名古屋大学における成人の生体部分肝移植症例の第1例目となる生体肝移植者を消化器内科から紹介しており、この患者さんは現在も、当院移植外科外来へ通院中であります。

平成22年1月より長坂隆治医師(名古屋第二赤十字病院・移植外科)より赴任し、同年4月より市議会の条例可決を経て正式に移植外科を標榜しました。同年12月には改正臓器移植法施行後、法的脳死下腎提供をうけて三河地方で初めての献腎移植を行ないました。

当院は日本で2番目に多い臓器提供病院であり、1949年の1例目に始まり、岡村和彦元院長・脳外科部長、渡邊正男副院長・脳外科部長のご尽力により、2010年末までに45件89腎を心停止下に提供しています。平成22年7月の臓器移植法改正により当院でも脳死下臓器提供も行われていくと思われます。長坂医師は名古屋第二赤十字病院において3例の法的脳死下臓器提供に院内コーディネーターとして携わり、この経験が今後、当院でのドナーアクション・プログラム推進に活かされると思ひます。

臓器移植者は免疫抑制療法継続の生涯のフォローアップが必要であります。また、近年移植臓器の生着率向上のより移植臓器機能が良好でありながら、終末期は、心血管疾患、脳血管疾患、悪性腫瘍等が原因となる方がみえます。これらを克服することが移植臓器をより長期に生着させることにつながります。そのためには、当科での移植免疫抑制療法の管理・治療はもとより、救急疾患、挙児希望、基礎疾患その他合併症の診断・治療(心疾患、肝疾患、悪性疾患、骨代謝性疾患)などに対して、全科あげて診療体系を構築して対応することが求められます。

今後も、生体腎移植を始め、当地域における移植医療全般の普及に努めていきたいと思ひています。また当地域で発生した心停止下ドナーの臓器摘出チームの編成や、他施設にて臓器移植をされた当地域患者さんの一般医療を含めた支援や、他病院のパンク寸前の移植医療のバックアップにも尽力したいと思ひています。

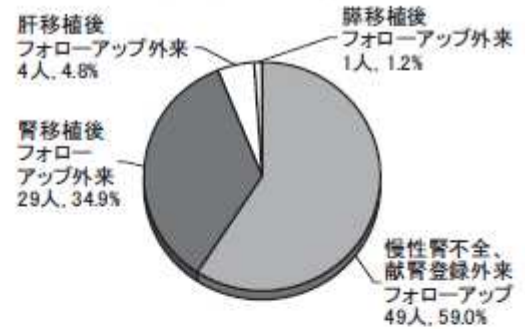
私の使命のひとつは、この三遠南信地域の臓器不全医療に携わっていききたいという若手(～中年)医師を育成することだと思ひています。三遠南信地域における移植医療の普及に努めるべく、今後益々、症例数を積み重ねていこうと思ひています。

生体腎移植手術
(ドナー手術はすべて内視鏡下腎採取術)
献腎移植手術

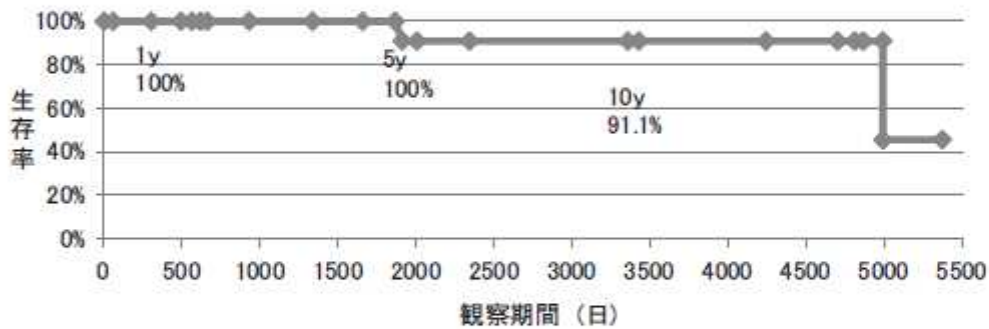
3 件 フォローアップ種別 83 件

1 件
(人)

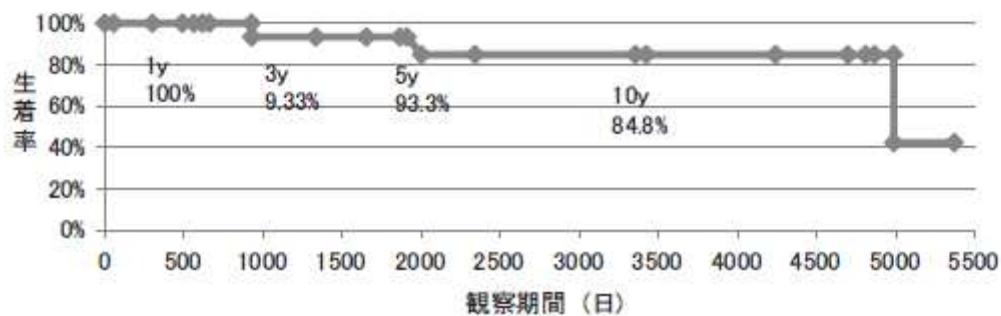
フォローアップ種別	患者数
慢性腎不全、献腎登録外来フォローアップ	49
腎移植後フォローアップ外来	29
肝移植後フォローアップ外来	4
膵移植後フォローアップ外来	1
計	83



患者生存率 (21人) (グラフのみ)



グラフト生着率 (21人) (グラフのみ)



業績

- 学会・研究会発表
- 論文
- 著作

学会・研究会発表

1. 術前バーチャルクロスにより献腎移植しえた症例
豊橋市民病院 移植外科 1)、名古屋第二日赤 移植外科 2)、長坂隆治 1)、
渡井至彦 2)、後藤憲彦 2)、平光高久 2)、山本貴之 2)、南木浩二 2)、山永成美 2)、
岡田 学 2)、大塚聡樹 1)、打田和治 2)
第 44 回日本臨床腎移植学会(宝塚)2011.1.26～28
2. 抗体関連拒絶反応制御のためにDSA定量は意義があるか？
名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター1)、
名古屋大学免疫機能制御学講座 2)、増子記念病院 3)、豊橋市民病院 4)、
山永成美 1)、渡井至彦 1)、小林孝彰 2)、片山昭男 3)、泉 久美子 1)、岡田学 1)、
野畑宏信 1)、山本貴之 1)、平光高久 1)、辻田 誠 1)、南木浩二 1)、後藤憲彦 1)、
後藤芳充 1)、植木常雄 3)、長坂隆治 4)、大塚聡樹 4)、武田朝美 1)、両角國男 1)
第 44 回日本臨床腎移植学会(宝塚)2011.1.26～28
3. HCV(+)献腎移植症例
豊橋市民病院 移植外科:長坂隆治、大塚聡樹
第 22 回東海北陸腎不全研究会(名古屋)2011.2.26
4. 生体部分膵・腎同時移植における病診連携についてー2年間の報告ー
豊橋市民病院 移植外科 1)、国立病院機構 千葉東病院 臨床研究センター2)
大塚聡樹 1)、長坂隆治 1)、剣持 敬 2)、浅野武秀 2)
第 38 回日本膵・膵島移植研究会(奈良)2011.3.4～5
5. 改正臓器移植法と献腎移植～当院の提供経験から～
豊橋市民病院移植外科 1) 豊橋市民病院看護局院内移植コーディネーター2)
大塚聡樹 1)、長坂隆治 1)、森山明美 2)、上村恵子 2)、中島佐江子 2)
第 27 回腎移植・血管外科研究会(札幌)2011.6.24～25

6. IVR 操作台式 X 線防護盤の γ 線遮蔽量の検討
豊橋市民病院 移植外科:大塚聡樹、長坂隆治
第 20 回日本腎不全外科研究会(横浜)2011.7.22~23
7. 臍・臍島移植における病診連携についての提言—生体部分臍・腎同時移植の病診
連携の経験から
豊橋市民病院 移植外科 1)、国立病院機構 千葉東病院 臨床研究センター2)
大塚聡樹 1)、長坂隆治 1)、剣持 敬 2)、浅野武秀 2)
第 47 回日本移植学会学術総会(仙台)2011.10.4~6
8. 異種移植における凝固系制御の試み:ヒトロンボモジュリン遺伝子導入クローンブ
タの作出
プライムテック 1)、農生資研 2)、名大医 3)、岩本正樹 1)2)、矢崎智子 1)2)、
三輪祐子 3)、丸山彰一 3)、鈴木俊一 2)、橋本径子 1)、大石貴嗣 1)、劉 大革 3)、
長坂隆治 3)、小林孝彰 3)、大西彰 2)
第 47 回日本移植学会学術総会(仙台)2011.10.4~6
9. 献腎移植後 3 ヶ月目に発症した肺アスペルギルス症の 1 例
豊橋市民病院 移植外科 1)、名古屋大学 免疫機能制御学 2)、
名古屋第二日赤 腎センター3) 長坂隆治 1)、大塚聡樹 1)、小林孝彰 2)、
後藤憲彦 3)、渡井至彦 3)、打田和治 3)
第 47 回日本移植学会学術総会(仙台)2011.10.4~6

論文

1. 治療に難渋した血液透析施行中の小細胞肺癌の 1 例
豊橋市民病院 心臓血管・呼吸器外科 1)、移植外科 2)大原啓二 1)、中山雅人 1)、
石川 寛 1)、加藤毅人 1)、成田久仁夫 1)、大塚聡樹 2)、長坂隆治 2)
腎不全外科 2011、腎と透析 69 巻別冊 2011、40-43
2. 生体部分臍・腎同時移植における病診連携について—2年間の報告—
豊橋市民病院 移植外科 1)、国立病院機構 千葉東病院 臨床研究センター2)
大塚聡樹 1)、長坂隆治 1)、剣持 敬 2)、浅野武秀 2)
移植 VOL.46 (6), 623-623, 2011

3. Role of Multifunctional Cell Cycle Modulators in Advanced Secondary Hyperparathyroidism
1) Department of Transplant and Endocrine Surgery, Nagoya Second Red Cross Hospital, Nagoya, and 2) Laboratory of Clinical Biochemistry, School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Science, Tokyo, Japan Tetsuhiko Sato 1), Yamato Kikkawa 2), Takahisa Hiramitsu 1), Takayuki Yamamoto 1), Norihiko Goto 1), Susumu Matsuoka 1), Takaharu Nagasaka 1), Yoshihiko Watarai 1), Kazuharu Uchida 1), and Yoshihiro Tominaga 1)
Therapeutic Apheresis and Dialysis 15 (Suppl. 1), 26-32, 2011

著作

1. 献腎移植希望登録後の生活
長坂隆治
「これを見ればすべてがわかる 腎移植 2011」44-46
NPO 法人 日本移植未来プロジェクト、東京医学社
2. 海外の移植事情
長坂隆治
「これを見ればすべてがわかる 腎移植 2011」132-134
NPO 法人 日本移植未来プロジェクト、東京医学社
3. 日本国籍を持たない人は日本で腎移植ができますか？
大塚聡樹
「これを見ればすべてがわかる 腎移植 2011」132-134
NPO 法人 日本移植未来プロジェクト、東京医学社
4. 術前バーチャルクロスにより献腎移植しえた症例
豊橋市民病院 移植外科 1)、名古屋第二日赤 移植外科 2)、長坂隆治 1)、大塚聡樹 1)、渡井至彦 2)、後藤憲彦 2)、平光高久 2)、山本貴之 2)、南木浩二 2)、山永成美 2)、岡田 学 2)、打田和治 2)
腎移植症例集 2011 (第 44 回日本臨床腎移植学会記録集) 201-203、
日本臨床腎移植学会 監修、高橋公太・市川靖二 編集

5. 抗体関連拒絶反応制御のためにDSA定量は意義があるか？

名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター1)、
名古屋大学免疫機能制御学講座 2)、増子記念病院 3)、豊橋市民病院 4)、
名古屋第二赤十字病院 HLA 検査室 5)
山永成美 1)、渡井至彦 1)、小林孝彰 2)、片山昭男 3)、泉 久美子 1)、岡田 学 1)、
野畑宏信 1)、山本貴之 1)、平光高久 1)、辻田 誠 1)、川口武彦 1)、南木浩二 1)、
後藤憲彦 1)、後藤芳充 1)、植木常雄 3)、長坂隆治 4)、大塚聡樹 4)、黒木聖久 5)、
武田朝美 1)、両角國男 1)、打田和治 1)
腎移植症例集 2011 (第 44 回日本臨床腎移植学会記録集) 206-209,
日本臨床腎移植学会 監修、高橋公太・市川靖二 編集

